

# Harvest Bible Forum

---

第2回

## ハーベスト聖書フォーラムキャンプ メッセージアウトライン



***We don't go to church.***

***We are the church!***

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

名前： \_\_\_\_\_

## 開会礼拝

# 「聖書フォーラム運動の理念」

中川健一

### イントロダクション

#### 1. 昨年のキャンプで語ったこと

- (1) 閉そく感
- (2) 明治維新と時代の要請  
時代が沸騰すると、新しい指導者が必要となる。  
維新の三傑 薩摩の西郷隆盛、大久保利通、長州の桂小五郎（木戸孝允）  
これ以外に、勝海舟（幕臣）、坂本竜馬（土佐を脱藩）  
適塾を主宰した緒方洪庵  
現在の日本は、リーダー不在の悲劇を味わっている。
- (3) 日本人の精神性  
制度や体制は変化しても、日本人の精神性は変わっていないのではないか。
- (4) 海外のキリスト教界の動き
  - ① 西洋中心のキリスト教から、アジア中心のキリスト教へ
  - ② その先に、イスラム圏、そして、イスラエルがある。
  - ③ 成熟したキリスト教圏での新しい現象
    - \* 聖書を学ばない教会、神学的にずれた教会
    - \* 生きた信仰を求める人たちが、自ら集会を始めている。

#### 2. 3・11以降の状況

- (1) OS を変える時
- (2) 日本という国の OS を変える時
  - ① 原発事故が提示した問題（世界観、人生観の見直し）
  - ② 権威主義の崩壊（中央から地方の時代へ）
  - ③ 古いムラ社会から新しいムラ社会へ

- ④ボランティア世代の出現
- ⑤新しいネットワークの広がり

- (3) キリスト教界における OS の変更とは何か。
- ①中国の家の教会から学ぼう。
  - ②米国のホームチャーチ運動から学ぼう。
  - ③各地の聖書フォーラムの活動から学ぼう。

## I. 現在進行しつつある霊的革命

日本の教会に一般的に見られる病理現象（FATIM）からの脱却  
「自立と共生」を目指して

1. 形式主義（FORMALISM）から自由（FREEDOM）へ
2. 権威主義（AUTHORITARIANISM）から自治（AUTONOMY）へ
  - ①自給伝道
  - ②自主運営
3. 伝統主義（TRADITIONALISM）から変革（TRANSFORMATION）へ
  - ①ユダヤ的聖書解釈
  - ②神の国の視点
4. 内向き志向（INWARD-LOOKING）から外向き志向（OUTWARD-LOOKING）
  - ①キリスト教信仰を世界観としてとらえる。
  - ②キリスト教信仰を歴史観としてとらえる。
5. 会員志向（MEMBERSHIP-ORIENTED）から流動志向（MIGRATION-ORIENTED）へ
  - ①歴史の流れと社会の現状を読む。
  - ②自らの動機の再確認

## II. 聖書フォーラム運動の4本柱

「日本の霊的覚醒（目覚め）は聖書研究から」

聖書塾は8期まで終了した。

そこから聖書フォーラムが全国10ヶ所に誕生した。

### 1. 聖書観（正統主義）

- (1) 聖書は、誤りなき神のことばである。
- (2) 聖書の原典は、靈感を受けて書かれており、なんの誤りも含まない。
- (3) 聖書は、信仰と生活に関する唯一で最終的な権威である。

### 2. ユダヤ的解釈

- (1) 字義通りの解釈（Literal interpretation）
- (2) 機械的な解釈ではなく、最も自然で、単純な解釈である。
- (3) 比喩的表現を否定するわけではない。
- (4) 字義的解釈は、「意味は一つである」という原則にこだわる。

### 3. イエス・キリスト中心

- (1) メシア（主イエス・キリスト）は、完全に人であり、完全に神である。
- (2) イエスは他の人間と同じように女から誕生し、生き、苦しみ、死んだ。
- (3) イエスは他の人間とは異なっていた。
  - ①永遠の昔から存在していた。
  - ②その生涯において一度も罪を犯さなかった。
  - ③その死は人類の罪を贖うものであった。
  - ④復活と昇天によって、神の力を示された。

### 4. ディスペンセーションナリズムという神学的枠組み

- (1) 7つのディスペンセーション
  - ①無垢の時代
  - ②良心の時代
  - ③人間による統治の時代
  - ④約束の時代
  - ⑤律法の時代
  - ⑥恵みの時代
  - ⑦御国の時代
- (2) 今は、第6番目のディスペンセーション、「恵みの時代」である。
  - ①終末論の確立
  - ②現代的適用
- (3) 聖書的にイスラエルを理解しようとする体系である。

## 聖会①

## 「中国の家の教会に学ぶ」

その歴史・現状・課題・日本への適用

守部喜雅

## はじめに

十数年前の事になりますが、中国から高齢の婦人伝道者がプライベートに日本を訪れたことがありました。その来日は、日本に留学して日本の企業で働いているお孫さんが、おばあちゃんを招くと言う形で実現しました。私的な訪問ということもあり、非公式にいくつかの集会でメッセージをするにとどまりましたが、その反響は大きなものでした。

この80代後半の“おばあちゃん”とみんなから親しく呼ばれている婦人伝道者は、文化大革命の時には投獄され、迫害の中で40年以上にも渡って、中国西北部の農村地帯を中心に伝道が続けてきた器です。80歳を超えてからも、月に一度は遠距離バスで、都市にある自宅から、近郊の農村に出かけ、10数か所の家の教会の集会を巡回しては聖書の話をして来ました。一つの集会には、300～400人の信徒が集まっており、総計すると、その婦人伝道者は、約5000人の群れを養っていることとなります。

こんな数字を並べると日本人の感覚からすると、いかにも誇大な報告に聞こえますが、この60年間に中国で起こった驚くべき伝道の拡大の記録を見ると、“おばあちゃん”の周辺で起こっていることが決して例外的なことではなく、中国の各地で当たり前のように起こっている現象だということが分かります。

さて、“おばあちゃん”の来日の時のことです。非公開ではありましたが、10日間で、8回程度の集会で奉仕しました。教会や老人ホーム、障害者施設などに加え、いくつかの家庭集会にも招かれたのです。その一つの家集会での事、そこには、私も参加していたのですが、メッセージが終わってお茶と交わりの時間になった時、来会者の女性から深刻な質問が飛び出したのです。

「どうして、日本の教会は成長しないと思いますか」。

しばらく沈黙していたおばあちゃんは、きっぱりと言ったのです。

「それは、クリスチャンに愛がないからです」。

もちろん、おばあちゃんは日本の宣教事情を知っていたわけではありません。しかし、そこに集まっていた人々は少なからず衝撃を受けたのです。それは、私自身も同じでした。教会に関する情報を発信するという仕事にたずさわってきた関係で、「日本宣教の課題とは？」などと、他人ごとのように問題提起をしてきたわけですが、一人のクリスチャンとして、自分自身がどれだけ、隣人に近づき、その魂の痛みを共有してきたか……。おばあちゃんの一言は、どんな宣教学の提言よりも私の胸に響きました。

そのおばあちゃんが言ったもう一つの言葉も忘れることが出来ません。

「御言葉を学ぶことは大切です。しかし、それ以上に大切なのは、御言葉をたくわえることです。しかし、それより大切なことは御言葉に生きることです」。

以前、アメリカの福音主義の神学者ウイルバー・スミスの晩年のインタビューを読んだことがあります。その当時、84歳の神学者は「あなたの人生で一番後悔していることは？」という質問に「それは、個人的に隣人に福音を伝えることをしなかったことです」と答えています。この神学者の後悔はまた、私自身にも当てはまるものでした。

そう言えば、私たちは「伝道」ということに関しても的外れの考えを持っているのではないか。それ故というか、閉そく感が日本の伝道の現場に漂ってはいないか。少なくとも、私自身の周囲には、燃え尽き症候群の中にいる牧師や信徒が少なくないのです。かくいう自分もまた、一人のクリスチャンとして、魂への情熱の欠如を痛いほど感じています。

これも、中国での体験ですが、だいぶ前に、日本から数人の牧師先生をお連れして、訪中したことがありました。目的は苦難の中を歩いて来た中国の家の教会の指導者と信仰を分かち合うためでした。

ちなみに、日本から中国の家の教会を訪ねる牧師が必ずと言っていいほどする質問があります。それは「なぜ、中国では、こんなにも多くの人が信仰を持つのですか」ということと「どうしたら、日本でも伝道が進むのでしょうか」というものです。

1949年、中国に共産主義政権が成立した当時、約70万人のプロテスタント信徒がいたと言われていました。それが、この60年で、約100倍の成長を遂げたとの報告がかなりの信ぴょう性で語られるようになったのです。日本のこの60年の教会成長率に比べると、これは考えられないような数字です。なにしろ、日本では、クリスチャンの数は120万人位と言われており、毎年、約5000人の受洗者が加えられているようですが、その数以上に、教会を離れる人々は多いのです。その結果、しっかりと教会に連なっている、いわゆる、活会員となると20万人位に絞られるというのが統計が示す現実です。

このような、危機感の中で、日本から中国を訪れた牧師たちは中国の伝道の秘訣を知りたかったのです。

ところが、日本人牧師からの質問に対し、その場にいた中国の老伝道者は、質問に直接答えることはせず、逆に、唐突な質問を日本人牧師にぶつけたのです。

「先生方にお尋ねしますが、伝道とは一体、何だと思われませんか？」。

日本人牧師は声を失いました。答えられないのではなく、質問が余りに単純だったからです。しかし、この質問は重いものでした。

しばらく沈黙が続いたあと、中国の伝道者は言いました。

「伝道とは私たちが神様のために働くことではありません」。

意外な言葉に日本人牧師は驚きます。どうして、伝道が神の為に働くことではないのか、あらゆることを犠牲にして働くことが伝道ではないのか。そんな自問自答をする中、その中国の伝道者は言葉を続けたのです。

「伝道とは、神様が、私達を通して、働かれることなのです」。

神が、主権を持っておられるというのです。この会談後、ある日本人牧師は、牧師になって初めて本当の自由を感じたと率直に感想を語ってくれました。これまで、伝道しなければならない、働かなければならないと思いつめ、自分を責め、いつのまにか燃え尽きていた。けれど、人間の側がおろかにも魂を救う方法論を考えている間にも、神様はすでに、働かれておられることが分かった、と言うのです。

日本のように自由に伝道ができる状況にはない環境の中で、中国で福音が前進している現実、この中国の伝道者の言葉の真実性をあかししていると言えないでしょうか。講演では、中国で体験した具体的なケースを取り上げ、日本のクリスチャンにとって、学ぶべきことはなにかを考えてみたいと思います。

# MEMO

---

## 聖会②

## 「中国の家の教会に学ぶ」

守部喜雅

## 中国の家の教会の歴史

1949年10月1日、北京の天安門で、毛沢東は共産主義中国の建国を宣言しました。その時点で、中国全土にあった一万を超えるプロテスタント教会は、すべて共産政府の管理下におかれたのです。すべての教会、およびその信徒は、国家と共産党に忠誠を誓うよう要請され、具体的には、1951年に発足した援朝坑米三自愛国運動に参加を強制されました。なお、同年末には、当時、6000人いたと言われる外国人宣教師のほぼ全員が国外退去となっています。

当時、中国本土には、バプテスト、ルーテル、長老派、メソジスト、ペンテコステなどのプロテスタントの主流の教会のほとんどが存在していましたが、その多くは、三自愛国教会に参加する道を選びました。その他に、中国には、ウオッチマン・ニーの「小群」や、聖霊派の「神の家族」などの土着の福音的教会もありましたが、そこもほとんどは三自に加わっています。

しかし、同じ教会の中でも、「教会の頭はキリストであり、共産党ではない」との強い信仰から、教会を脱会する牧師、伝道者、信徒も出てきて、彼等は独自の集会を始めることとなります。これが、中国における家の教会の誕生に繋がっていくのです。

1956年頃から、家の教会への弾圧が本格的になります。三自に加わらず独自の集会を開いていた牧師や伝道者の元に、公安局と宗教局の役員が急襲、その人々は逮捕されました。そのほとんどが、「反革命分子」の罪状で、辺境の地にある強制労働所に送られ、二十年前後の獄中生活を送ることになるのです。

指導者を失った家の教会が中国各地にありましたが、ここから、彼らが「使徒行伝29章」と表現する奇跡の教会成長が始まったのです。集会では、信徒の賜物が用いられ、家族や友人を始め、個人伝道で福音は急速に広がっていきました。(参照聖句＝第一ペテロ・4章・7～11)

しかも、この成長は、迫害と苦難の中で実現したのです。特に、1966～69年にかけての文化大革命の時には、家の教会だけでなく政府管理下にあった三自愛国教会も迫害され、ほとんどの教会堂は閉鎖され、クリスチャンが持っていた聖書のほとんどは燃やし尽くされました。それでも、この苦難の時代に、主の働きは前進していました。教会堂に頼らない家の教会は、家庭で臨機応変に集まることも出来ましたし、愛が失われ憎しみの時代と言われた文化大革命の時だからこそ、その闇の中に輝き続けた家の教会のクリスチャンの愛のあかしは、多くの人々に人生の希望をもたらしました。中国においては「苦難の時こそ神の栄光が現れる絶好の機会」となったのです。

ある家の教会の伝道者に「中国の教会の成長の最大の原因は？」と聞いた時、彼は、即座に「苦難です」と答えました。「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです」(ピリピ1・29)との御言葉を中国の家の教会の人々は実際に体験しました。

### 中国の家の教会の現状

中国が共産化した1949年当時、中国のクリスチャン人口は約70万人とされています。これが60年経った現在では、一億を超えるという調査報告もあります。ちなみに、日本の1950年始めのクリスチャンの数もまた約70万人と言われ、現在は、洗礼を受けた人は約120万人ですが、定期的に教会の礼拝に出席している人は約25万人との統計もあります。

中国の家の教会の拡大は、まず、農村部で始まり、80年代以降は沿岸部の都市に広がっていったというのが定説になっていますが、貧しい農村から若者たちが出稼ぎで都市に出てきて、都市の家の教会が彼らの心の友となって行く所から、急激に都市の家の教会は成長したという面があります。

それと、もう一つ、1989年に北京で天安門事件が起こった時、実に多くの若者が国外脱出したと言われていますが、そのほとんどは、逃亡先をアメリカにした結果、現地の福音的教会が彼らを受け入れ援助したというのです。その結果、多くの若者は回心し、ある者は牧師に、ある者は信徒伝道者となって、活発に奉仕活動を続けました。彼らの目標は、中国に帰って、福音を伝えることでした。そこで、今から、5～6年前から、それぞれに、弁護士、医者、ビジネスマン、といった職業を持った彼らが中国へ帰還し始めたのです。これは、政府の緩和政策とも関係します。

中国に帰還した彼等は、クリスチャンも多く、中国で教会を探した結果、表に出ている三自愛国教会へ出席したのです。昔に比べ、三自の教会も成長しており、天安門事件当時は、不足していた聖書も、三自の書店に行けば自由に購入できるまでになっていました。しかし、何かが違うのです。回心を体験した彼らにとって福音宣教を積極的にすることは、当然のことでしたが、三自では、教会内の集会は自由であっても、そこから出て行って公に伝道することは、まだ認められていませんでした。そこで、彼ら「海帰派」は、三自を出て、独自で集会を始めたのです。この「海帰派」の家の教会が、新しい波と言ってもよいでしょう。北京を中心に、急激に広がっている群れで、ビルの一室を借りて千人規模の集会をしているケースも出てきています。

### 中国の家の教会の課題

信徒中心に広がった家の教会でしたが、聖書教育が出来る牧師や伝道者の不足は、最も大きな

課題となっています。そのため、中国全土に、秘密の伝道者訓練学校が設立され、多くの若者たちが聖書の学びを真剣にしています。80年代からは、台湾、シンガポール、アメリカ、韓国など外国からの講師も奉仕するようになり、約二年間で研修を終え、伝道の第一線に出かけるケースもめずらしくありません。しかし、霊的指導者の養成は、日本でもそうですが、中国においてはより深刻な問題であることには変わりありません。

その他、注解書付きの伝道者用聖書や、福音的聖書注解書、霊想書、信仰書、など、伝道者養成に不可欠の書籍類も、この三十年、日本を中心に海外から、定期的に、各地の家の教会に届けられています。まだまだ足りません。

聖書に関しては、中国では御言葉の飢きんが長く続きました。1990年代に入り、三自愛国教会で聖書の印刷が始まり、かなりの普及を示していますが、中国のクリスチャン人口の半数はまだ聖書がないという報告もあります。特に、三自教会がない辺境の農村地帯には、未だに、聖書を持っていない信徒が多くいるのが現実です。

### 中国の家の教会と日本の教会

かつて中国を侵略した日本人に対し、中国の反日感情は根強いものがあります。ですから、日本人クリスチャンが中国伝道をするということは、他の国のクリスチャンがそれをするとは意味が違うと言われたことがあります。

我々日本人が、苦難を通過してきた中国の家の教会から学ぶことは多く有りますが、それと同時に、なぜ、日本の教会が中国の家の教会に仕える働きをする必要があるのかを考えてみることも重要でしょう。

歴史を支配される主が、日本と中国の関係において、どのようなみ心を持っておられるのかを知ろうと祈り求めることは、中国の家の教会の効果的伝道の方法論を学ぶことよりもっと大切なことだと思われます。

# MEMO

---

## 聖会③

# 「スモールグループの歴史」

中川健一

### イントロダクション

#### 1. 最近発見したこと

- (1) <http://www.christianitytoday.com/>
- (2) <http://www.smallgroups.com/>
  - ①スモールグループ運動の広がり、一過性の流行現象ではない。
  - ②この運動は、個人にとっても、教会全体にとっても、大きな意味を持っている。

#### 2. 「Renewing Your Church Through Healthy Small Groups」 by Diana C. Bennett

(Small Group Development and Training のディレクターである。)

[www.LeadershipTransformations.org](http://www.LeadershipTransformations.org)

- (1) スモールグループの歴史を見ると、これが一時的なものでないことが分かる。
- (2) それどころ、スモールグループこそ、神の民を形成するための主要な力である。
- (3) 神は、スモールグループを任命し、ご自身の計画を実行される。

#### 3. Diana C. Bennett の主張を要約してみる。

- (1) 三位一体
- (2) ノア
- (3) モーセ
- (4) ダニエル
- (5) イエス
- (6) プロテスタントの宗教改革
- (7) ピュリタン

### I. 三位一体

#### 1. 定義

「神は、実体（サブスタントィア）において唯一の神でありつつ、父と子と聖霊という三つ

の位格（ペルソナ）において存在する」

- (1) 父なる神 私たちを支え、私たちに目的を与えてくださる方
- (2) 子なる神 唯一の人類の救い主
- (3) 聖霊なる神 私たちに悟りと慰めと聖めを与えてくださる方

## 2. 三位一体の神全体が人類の救済に係っておられる。

- (1) 唯一の神、3つの位格

## 3. 適用

- (1) 自立と共生
- (2) スモールグループは、神の性質を真似ることによって霊的更新を体験する場。

## II. ノア

### 1. 全人類から選ばれた8人の人々

- (1) 神の民が誕生し、広がるためのスモールグループである。

## III. モーセ

### 1. モーセの舅であるイテロの助言（出 18：21～26）

- (1) 千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長が任命された。

### 2. 権限委譲と組織化は、どの組織にも適用されるものである。

## IV. ダニエル

### 1. バビロン捕囚となったダニエル（ダニ 2：17）

「それから、ダニエルは自分の家に帰り、彼の同僚のハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤにこのことを知らせた。彼らはこの秘密について、天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚が他のバビロンの知者たちとともに滅ぼされることのないようにと願った」

- (1) ダニエルに3人の友人がいた。
- (2) ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤ
- (3) シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ（ダニ 1：7）

2. 70年の捕囚の期間、彼らはイスラエルの神こそ絶対者であるという信仰を維持した。

## V. イエス

### 1. 12使徒の選び

- (1) 将来のリーダーを養成するための訓練
- (2) イエスをモデル（手本）とするオンザジョブ・トレーニング
- (3) 学んだことのフィードバック
- (4) お互いに対して責任を負うスモールグループ

2. イエスが弟子たちを訓練する方法から、リーダーは教訓を学ぶことができる。

3. 臆病で疑り深い弟子たちが、勇敢で献身的な弟子たちへと変化した。

- (1) 復活のイエスの顕現
- (2) 聖霊降臨

### 4. スモールグループの変革

- (1) 3,000人の救い（使2：41）
- (2) 初代教会（使2：42～47、4：32～37）
  - ①使たちの教えを固く守り、
  - ②交わりをし、
  - ③パンを裂き、
  - ④そして、祈りをしていた。

5. キリスト教史の最初の250年は、家の教会中心に展開した。

- (1) 使2：46
- (2) 使5：42
- (3) 使8：3
- (4) 使12：12
- (5) 使20：7
- (6) 使20：20
- (7) ロマ16：5、10、11
- (8) 1コリ16：19
- (9) コロ4：15
- (10) ピレ1：2

## VII. プロテスタントの宗教改革

### 1. マルチン・ルター（1483～1546年）

- (1) 教皇と聖礼典の権威、そして教会の伝統への疑問
- (2) プロテスタントの3原則
  - ①聖書のみ
  - ②信仰と恵みによる救い
  - ③万人祭司
    - \* 聖書研究と祈りのためのスモールグループの形成
    - \* 信徒が聖書を取り戻すための運動
- (3) 宗教改革は、中世から近代への移行の象徴となった。

### 2. ジョン・カルバン（1509～1564年）

- (1) フランス人の宗教改革者。スイスを中心に活躍した。
- (2) 信徒に聖書を教えるためにスモールグループの形成を奨励した。
- (3) 「キリスト教綱要」を書いた理由は、信徒に聖書を学ぶ機会を提供するため。

### 3. ジョン・ウェスレー（1703～1791年）

- (1) 英国の指導者
- (2) 弟のチャールズとともにスモールグループを結成。
  - ①これは「the Holy Club」として有名。
  - ②厳格な弟子訓練を施したので、「Methodist」と呼ばれるようになった。
- (3) ウェスレーが指導するリバイバルでは、スモールグループが鍵になった。
  - ①「class meetings」
  - ②ウェスレーは、すべての信徒がスモールグループに属することを期待した。
- (4) 英国はウェスレーのリバイバルによって変革を遂げた。

## VIII. ピューリタン

### 1. 読み書きできる人（学問のある人）の運動である。

- (1) 一般人でも読める聖書の出版と配布
  - ①1560年の「Geneva Version」（1644年に絶版）
  - ②宗教改革者たち、新大陸へ移住した人たちは、すべてこの聖書を使用した。
  - ③シェイクスピア、バニヤン、ミルトン、なども同じ。

④「King James Version」は、1611年刊行

2. 英国でも米国でも、ピューリタンはスモールグループを重視した。

(1)「private meetings」と称した。

①最低、週に1回

②聖書研究と霊的成長のため

3. 「private meetings」の目的

(1) 互いに愛する愛を表現するため

(2) 祈りの共同体として「教会のための熱心な祈り」を捧げる。自分もその一部。

(3) 時宜に叶った方法で、福音を直接的に伝えることができる。

(4) 必要に応じて、互いに教え戒め合うことができる。

(5) 悲しんでいる人に対して神の慰めの器となる。

(6) 聖霊の賜物を発揮するためのフォーラムとなる。

4. ピューリタニズムは米国社会の精神性を形成するに至った。

結論

1. 神は、歴史上スモールグループを大いに用いられた。

2. 私たちは、神との交わり、互いとの交わりを必要としている。

## 聖会④

# 「米国におけるスモールグループ」

中川健一

### イントロダクション

#### 1. <http://www.smallgroups.com/>

- (1) スモールグループ運動の広がり、一過性の流行現象ではない。
- (2) スモールグループの歴史を見ると、これが一時的なものではないことが分かる。
- (3) この運動は、個人にとっても、教会全体にとっても、大きな意味を持っている。

#### 2. スモールグループの10のパターン（モデル）

- (1) オープン・スモールグループ
- (2) クローズ・スモールグループ
- (3) セル・グループ
- (4) フリーマーケット・グループ
- (5) 近隣グループ
- (6) 説教中心グループ
- (7) 家の教会

### 1. オープン・スモールグループ

#### 1. 特徴

- (1) いつでも、誰でも参加できる状態にある。
- (2) いつも出席している人の数が増えると、新グループ誕生を検討する。
- (3) ある一定の数（通常は8～12人）に達すると、「クローズ」になることもある。
- (4) 新来会者が来ることを強く願うグループである。

#### 2. 長所

#### 3. 欠点

## II. クローズ・スモールグループ

### 1. 特徴

- (1) 参加者同士の間に関係、親密さ、説明責任が築かれることを重視する。
- (2) 通常は、新来会者の参加を認めない。
- (3) ある特定の期間を決めて、活動することが多い。半年から数年の間。

### 2. 長所

### 3. 欠点

## III. セル・グループ

### 1. 特徴

- (1) スモールグループを教会組織の基本単位と考える（人間の体の細胞と同じ）。
- (2) セルは数多くあるプログラムのひとつではなく、必要不可欠なものとされる。
- (3) 4つの中心的な要因が DNA となる。  
礼拝、育成、関係を通じた伝道、弟子訓練
- (4) 人数が増えると（通常は5～15名）、同じDNAを持った新しいセルを生み出す。
- (5) 週に一度の集まり、さらに集会と集会の間の「セル・ライフ」の強調。

### 2. 長所

### 3. 欠点

## IV. フリーマーケット・グループ

### 1. 特徴

- (1) 興味あるテーマ、互いの類似性などによってグループを形成する。
- (2) このグループを霊的共同体に育てることがゴールである。
- (3) 人数は多いことも、少ないこともある。
- (4) リーダーがテーマを選び、発展させる。

- (5) 前提になっているのは、人は押し付けられることを嫌うという考え方である。
- (6) 健康なグループは成長し、不健康なグループは衰退するという前提もある。

## 2. 長所

## 3. 欠点

### V. 近隣グループ

#### 1. 特徴

- (1) 近くで生活する人同志なら、より深い関係が形成されるという前提がある。
- (2) 老若男女がともに集う。
- (3) 教会の指導体制も、地域割で設定される。小学校の校区が参考になる。

## 2. 長所

## 3. 欠点

### VI. 説教中心グループ

#### 1. 特徴

- (1) 礼拝で説教された箇所を、グループで学ぶ。
- (2) 説教で触れられなかった点を話し合うこともある。
- (3) 教会スタッフが資料を用意することもあるが、活用法はリーダーに委ねられる。

## 2. 長所

## 3. 欠点

## VII. 家の教会

### 1. 特徴

- (1) セル・グループと似ている。スモールグループを教会組織の基本と考える。
- (2) その考え方をさらに進めると、スモールグループそのものが教会となる。
- (3) 家の教会のメンバーが、他の教会や霊的共同体との関係を保持し続けることもあるが、そうでない場合もある。
- (4) 奉仕の責任は有給スタッフではなく、家の教会のリーダーとメンバーにある。
- (5) ネットワークを形成し、合同礼拝や大きなイベントを共同で実行することもある。

### 2. 長所

### 3. 欠点

## 出発礼拝

# 「聖餐式の恵み」

中川健一

### イントロダクション

#### 1. 聖礼典について

(1) 聖礼典と認められるための3つの条件

- ①キリストによって命令されているか。
- ②使徒の働きの中で、実際に実行されているか。
- ③書簡の中で、詳しく解説されているか。

(2) 聖餐式は、イエスによって命じられている。

①ルカ 22：19～20

「それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。『これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい』。食事の後、杯も同じようにして言われた。『この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です』」

(3) 聖餐式は、使徒の働きの中で実行されている。

- ①使 2：42
- ②使 2：46
- ③使 20：7

(4) 聖餐式の神学的意味は、書簡の中で論じられている。

- ①1 コリ 10：16～17
- ②1 コリ 11：23～31

#### 2. メッセージのアウトライン

- (1) 聖餐式の意味
- (2) 聖餐式の目的
- (3) 参加資格

## I. 聖餐式の意味

### 1. 化体説 (Transubstantiation)

- (1) カトリック教会の立場である。
- (2) 司祭の聖別の祈りによって、パンとぶどう酒はキリストの体と血に変化する。
- (3) 聖餐式のたびに、キリストの犠牲が新しく捧げられている。
- (4) 種なしパンではなく、ホスチア（うすいウェハース）が用いられる。
- (5) つい最近まで、信徒はパンだけを拝領した。

### 2. 実体共存説 (Consubstantiation)

- (1) カトリック教会の化体説を認めない。ルター派と聖公会がこの説に立つ。
- (2) パンとぶどう酒の実体は変化しない。
- (3) しかし、キリストの体と血の実体は、パンとぶどう酒の中に共存する。
- (4) 結局は、キリストの体と血の実体が物理的にそこに存在することになる。

### 3. 霊的存在説 (The Spiritual Presence)

- (1) ジョン・カルバンの立場である。従って、改革派の教会の立場となっている。
- (2) キリストの体と血は、パンとぶどう酒の中に物理的にではなく霊的に存在する。

### 4. 記念説 (A Memorial)

- (1) イエスのことばは、化体説も、実体共存説も、霊的存在説も支持していない。
- (2) 聖餐式は、イエスを記念するために行うものである。
- (3) 宗教改革者の中では、ツウィングリ（スイスの宗教改革者）がこの説を提唱した。
- (4) 聖句

#### ①ルカ 22：19

「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい」

#### ②1 コリ 11：24～25

「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい」

「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい」

#### ③1 コリ 11：26

「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」

## II. 聖餐式の目的

### 1. キリストを記念すること

- (1) 聖餐式はキリストのいのち（パン）、死（ぶどう酒）、復活と今ある臨在（式そのもの）を思い出すためのものである。

### 2. キリストの死を宣言すること

- (1) 1 コリ 11：26  
 (2) イエスは、最後の晩餐の翌朝に十字架に付けられた。

### 3. キリストの再臨を確認すること

- (1) 1 コリ 11：26  
 (2) マタ 26：29  
 「ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません」

### 4. キリストとの交わり、信者との交わりの時

- (1) 1 コリ 10：21  
 (2) キリストを記念する式の中に、キリストの臨在がある。  
 (3) 個人的に行う聖餐式をあり得ない。

## III. 参加資格

### 1. 新生体験

- (1) 信者でない人に、意図的に聖餐式のパンとぶどう酒を与えてはならない。  
 ①これは差別ではない。  
 ②未信者にとってはなんの意味もない。  
 (2) 信者は、メシアの死、埋葬、復活を記念し、再臨の時まで福音を伝えるために聖餐式に参加する。

### 2. 水の洗礼

- (1) 当時は、信じたその日に水の洗礼を受けた。  
 ①当時の人々は、洗礼の意味についてよく知っていた。  
 ②今日、洗礼に関する混乱や無知が横行している。  
 (2) 今の時代は、洗礼式の前に準備の学びをした方がよい。

- ①洗礼が聖餐式に参加する条件であるかどうかに関して、聖書はあいまいである。
- ②信仰が確認されるなら参加してもよいと考えられる。

### 3. 自己吟味

#### (1) 1 コリ 11：27～28

「したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すこととなります。ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい」

#### (2) 自己吟味の内容

- ①パンとぶどう酒が象徴していることの確認
- ②知っている限りの罪の告白
- ③自らの歩みの確認
- ④主がしてくださったことへの感謝と畏怖の念

#### (3) 自己吟味をしないことの危険性

##### ①1 コリ 11：29～31

「そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます」

## 第2回 ハーベスト聖書フォーラムキャンプ日程表

### テーマ「中国の家の教会から学ぶ」

(中国の家の教会の歴史・現状・課題・日本への適用)

7月28日(木)

12:30~13:15	ハーベスト受付	1Fロビー	
13:30~15:00	開会礼拝 「聖書フォーラム運動の理念」 (オリエンテーション含む)	2F さくら	司会 榊兄 奏楽 板倉姉 中川健一師
15:00~16:00	部屋にチェックイン、休憩		
16:00~17:30	聖会①(受洗者証しあり) 「中国の家の教会から学ぶ」	2F さくら	司会 中川師 奏楽 板倉姉 守部喜雅氏
17:30~18:30	休憩		散歩など
18:30~21:00	バンケット 各フォーラム紹介・証し他	1F かえで	司会 永山兄、山崎姉

7月29日(金)

7:30~8:30	朝食	1F ロベス	
9:00~10:30	聖会② 「中国の家の教会から学ぶ」	2F さくら	司会 中川師 奏楽 板倉姉 守部喜雅氏
10:30~11:00	休憩		
11:00~12:30	聖会③ 「スモールグループの歴史」	2F さくら	司会 榊兄 奏楽 板倉姉 中川健一師
12:30~13:30	昼食(弁当)	1F かえで	
13:30~14:00	洗礼式	2F 浴室	中川健一師
14:00~18:00 (14:00~15:30)	自由 (リーダー会)	陶芸教室、スケート、テニス、プール、温泉他 (2F さくら)	
18:00~19:00	ディナー	1F かえで	イタリアンバイキング
19:00~19:30	賛美集会	2F さくら	司会 永山兄 山崎姉 奏楽 佐藤陽子姉
19:30~21:00	聖会④(献金) 「米国におけるスモールグループ」 (長老按手礼)	2F さくら	司会 中川師 奏楽 板倉姉 中川健一師

7月30日(土)

7:30~8:30	朝食	1F ロベス	
8:30~9:00	チェックアウト	1F ロビー	
9:00~11:30	出発礼拝 「聖餐式の恵み」 (聖餐式)	2F さくら	司会 榊兄 奏楽 板倉姉 中川健一師

\*オプション: 終了後、希望者のみ、御殿場アウトレットモールのサンクゼール店でランチ会

2011年7月28~30日開催(於 御殿場高原ホテルB.U.)